



所在地 逗子市新宿
 建物概要 木造平屋建 瓦葺
 建築面積 181 m²
 建築年 明治33年(1900年)
 設計・施工 松井 治吉
 国登録有形文化財 第14-0053号
 ※平成13年(2001年)8月28日登録
 ※私邸のため、見学はできません



逗子で最初に別荘地が開かれた田越川界隈に、法律家・長島鷺太郎氏が別邸として建設しました。津波や台風を避けるために海に面せず、田越川に面した庭と、その庭との一体感のある伝統的な日本家屋です。

地元の棟梁として誉れ高い松井治吉氏の設計・施工により、明治33年(1900年)に長島邸は建てられました。書院座敷、神代杉の天井板、一間の柱間の五寸角の柱と一間幅の広縁。小笠原砂塗の壁といった内装のしつらえ。黒松や榎の大樹のある裏庭。その先に流れる田越川など、屋敷全体が織りなす風情が、逗子別荘文化の香りを漂わせています。創建当時の敷地面積は約800坪。これは当時の新宿浜の別荘地としては標準的な敷地面積。敷地は周辺より2メートル近く高くなっていますが、田越川に沿って約3尺(90センチ)ほど低くなっており、そこに湯屋と厨房、茶の間などの日常的な機能がありました。当時は川から直接船で接岸でき、庭にはテニスコートもありました。関東大震災で海岸に面した一列の別荘は破壊されましたが、長島邸の津波被害は湯屋のみだったそうです。

昭和40年(1965年)より長島鷺太郎氏の孫である建築家の長島孝一氏が居住しています。自生していた黒松に加え、復旧時に植えた黒松が、今では珍しい黒松の群生となり、市の保存樹となっています。